

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について共有できるように1日1回唱和しているが、意識が薄れていることや理念について学ぶ機会が少ない状態である。改めて理念の大切さを学び深める機会を設ける必要がある。	理念に基づく実践について、あらためて学び深めよう。	KJ法などを用いて1年に1回は時間を作つて一緒に考え共有できる時間を作っていく。	12ヶ月
2	26	プラン作成に本人家族の思いを中心に計画を立てる改善を進めたが、さらに日常の変化やかかわりから小さなニーズにも対応し計画に盛り込められるようにし、個別性をより深められないだろうか。必要時に瞬時に対応できる工夫が出来ないか。	職員全体の意見が計画立案に反映できるように利用者中心の支援に繋がるようにしたい。	月1回の職員会議と日々のミーティングに加えて個別の利用者ニーズ検討会を新たに取り組んでみる。小さな気づきが大切にできるよう新たに月3回会議の時間を設ける。	12ヶ月
3	13	法人内研修や外部研修にて支援につながる研修を行っているが、職員全体が実践に生かすにはまだ十分ではない。	経験を積みながら職員が福祉の専門職として専門性を発揮し実践に生かしていく仕組みを作る。	個々職員が実践者研修の自施設研修の様な取り組みを継続的に行えるように一定期間をPDCAサイクルで行ってみる。その中で立案者やそれを協力する職員の気づきを深めてチームワークの大切さや個人の育成につなげる。	12ヶ月
4	7	虐待がしてはいけない事は研修で個々わかっているが虐待へつながる無意識の行為がたとえばスピーチロックなどが環境に影響を与えていていることが職員によって理解がばらつきがある。	職員が日常のかかわりの中で相手を思いやりそ人の人生を大切にする気持ちを育てる。	職員会議の議題として虐待に関する学びの場を作り、業務優先になってしまったり職員がリードしてしまう生活の流れを見直し、やつてしまいがちな些細な行為に気づき、意見交換をして普段の関わりの振り返りを行っていく。	12ヶ月
5	33	終末期も含めた利用者支援をいまだ一度も事業所としては経験していない。利用者やその家族が望めば最期までホームで過ごせる環境を作っていく必要がある。	本人の望む生き方を最期の迎え方も含めて支援できる環境を整えていく。	職員がその時に不安にならない様に繰り返し学びの場を設ける。医療環境では必要時訪問診療専門の病院を新たに協力機関に加えていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。